令和6年(2024年) 度行政評価シート【個表】 令和 6 年 6 月 21 日

評価対	象事業		評価者	青少年課 小林瑞幸	
こども-30	育成事業		■ 自治事務	主管課	青少年課
	月八争未		□ 法定受託事務	関連課	_
総合計画上の位置付け	分野	青少年育成	施策の方針	青少年の育り	

1 事業の目的

対 青少年

象

意 次世代を担う青少年一人ひとりの自立に向けた環境づくりを推進するため。

図

<mark>効</mark> 青少年に多様な体験・活動の機会を提供し、地域を支える人材を育成する。

業地域に青少年が集うことができる居場所や社会参画の機会・仕組みを提供する。

2 令和5年(2023年)度に実施した事業の概要

- ・「鎌倉市子ども・若者育成プラン」で掲げる「青少年の居場所づくり」「地域の担い手のとなる青少年の育成」について行政 としてどういった取り組みをしていけるのか議論するため、青少年問題協議会を開催した。
- ・青少年指導員の主催により、子どもキャンプの企画や、指導員資質向上のための研修等を行った。また、広報紙等の発行を行い、自治町内会等への配布を行った。
- ・子ども会57団体に活動費等の支援を行うため、補助金を交付した。
- ・「令和6年二十歳のつどい」の事業者選定に二十歳当事者の意見意向を反映させるとともに、式典開催においても二十歳当事者が企画、準備、実施まで積極的に参画した。
- ・青少年の居場所づくりに向け、中高生による鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会を組織し議論した。
- ・自習スペース「わかたま」の環境改善を行った。
- ・不登校傾向の児童、生徒がフリースクールに通う費用の一部の補助を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝		宇施口	た主な事業			令和6年度			
枝番号	事務事業		な経費等)	指標(単位)	指標(実績 事業費(決算	値/目 /当初	標値))(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	達成度
01	青少年問題協議会運		ども・若者育		_	/	_	-	
	営事務	成プランの	の推進		246	/	408	306	
02	青少年指導員等支援	ブに対す	ノーダーズクラ る支援委託、	青少年指導員	39	/	30	30	130%
	事業	放課後か	まくらっ子プ の実施等	活動回数平均(回)	2,333	/	2,801	3,426	
03	子ども会助成事業		に対する補助		_	/	-	-	
] 乙廿五朔以事未	金の交付		_	543	/	617	615	
04	二十歳のつどい事業		つどい実行 よる式典の企	二十歳のつどい	1,199	/	1,100		109%
	二十成の 2019来	要員去に	よる式楽の正	参加者数(人)	2,295	/	2,345	2,755	109%
05	一般事務経費	消耗品等			-	/	_	-	
	一放事份社員	伊杜四节	_		120	/	158	141	
06	居場所づくり検討事業)居場所検討 礼、アンケー		-	/	-	-	
	西場別 スツ快引事未	ト調査等	化、アンケー	_	30	/	30	7,636	
07	フリースクール等利用	制度創設	に向けた協	制度利用(申請)件数	-	/	-	-	
	児童生徒支援補助金	議検討		机皮利用(甲酮/干效	5,993	/	6,000	14,400	
				国県支出金	300	/	300	300	
	財源 内訳		財源			/			
			その他特定財源		/				
				一般財源	11,260	/	12,059	28,979	
				の合計 (千円)	11,560	/	12,359	29,279	
			人作	牛費 (千円)			22,788	28,916	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

・しのナネに図り													
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度							
正規職員等	1.7	2.9	3.5	3.0	3.5								
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0								

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	青少年問題協議会運 営事務	条例に基づき設置しているため 指標は設定しない。	青少年の指導・育成・更正等に 関する総合的施策について調査 審議し、評価することに寄与して いる。	_
	青少年指導員等支援 事業		地域を支える人材育成、地域による青少年の見守りを牽引、地域による青少年育成の仕組みへ寄与している。	青少年指導員の高齢化や成り手不足が見られる。青少年指導員の活動内容に関する広報や周知を強化する必要がある。
03	子ども会助成事業			子どもの数の減少に伴う子ども会組 織率の低下が見られる。青少年の活 動に対する支援の在り方を改めて考 えるべきである。
04	二十歳のつどい事業	二十歳のつどい参加者数は、新成人対象者に対し、例年通りの約80%の参加率である。	二十歳という節目の年齢を迎える青年たちが、本格的に社会の 一員となっていくことを祝い、励 ますことで次世代育成に寄与し ている。	_
05	一般事務経費	_	_	_
06	居場所づくり検討事業	_	青少年が地域において自分の居場所を得ることで、青少年が成長、活躍できる社会づくりに寄与する。	青少年が、自宅や学校以外に安全や 安心を感じることができたり、仲間と 集えることができる居場所が必要で ある。
07	フリースクール等利用 児童生徒支援補助金	新規	不登校傾向にある児童生徒がそれぞれの特性に合った通いの居場所(=フリースクール等)を確保していくことに寄与する。	_

(2) 視点別評価

	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない	
効率性	事業の外部化(民営化・業務委託等)に	はできないか	1 実施済み	
	関連・類似する事業の統合はできない	か	3 統合できる事業はない	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズは	あるか	1 市民ニーズは変わらずにある	
女当住	民間によるサービスで代替できる事業	はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はど	うか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済	○-2 適正な受益者負担を導入している	
			○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している	
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	青少年指導員連絡協議会 二十歳のつどい実行委員会 子ども会 鎌青リニューアル実行委員会	

(3)総合評価	※最小事業評	価を踏まえて、今年度以降	の取組方針等を記載	載する		
【今後の方針】	■ 拡充	□ 改善·変更	□ 現状維持		縮小	□ 休止・廃止
「青少年の居場	易所」のさらなる充	実のため、自習スペースわ	かたまを新設すると	ともに、	鎌倉青	少年会館の環境改善

を行い、中高生にとってのもうひとつの居場所の創設を図る。 フリースクール等の利用料補助を継続し、不登校傾向にある児童生徒が自らの特性にあった居場所を見つけること のできるよう支援する。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	青少年指導員活動回数平均							単位	口
指標設	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R	6年度	R7年度	
	青少年を対象とした取組みを地域で		30	30	30	30		30	30
行うための指標となるため		実績値	22	30	40	39			
		達成率	66%	100%	100%	100%			

指標(単位)	二十歳のつどい	エ十歳のつどい参加者数 単位							
指標設	定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
二十歳を迎える当事者による企画、 運営により式典を開催するため		目標値	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	
度呂により式典を持	刊催りるだめ	実績値	オンライン開催	1,171	1,149	1,199			
		達成率	_	100%	100%	100%			

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	青少年人口1000人に対する青少年指導員の委嘱数(委嘱期間2年)								
団体名	鎌倉市	横須賀市	三浦市	逗子市	葉山町	秦野市	小田原市	茅ヶ崎市	
州古宝 结	52	147	50	18	16	56	72	79	
他市実績	1.24	1.44	5.74	1.34	2.13	1.23	1.48	1.19	

	近隣市町と同等、青少年人口1000人に対し、1.2人〜1.5人の青少年指導員を委嘱している。 浦市は5人程を委嘱)	(Ξ
--	--------------------------------------------------------------	----